

市民と行政の架け橋になる

おおさわ
大澤
さちこ
幸子
さん



PROFILE おおさわ・さちこ (68：西側区)
介護予防地域支援グループ「にこにこサロン」、転倒予防教室「かがやきサロン」の代表。ボランティア活動を通じて行政相談の広報活動にも努めている。

栄えある局長表彰

今年5月、行政相談委員としての長年の功績が認められ、総務省中部管区行政評価局長表彰を受けた大澤幸子さん。

「困っている人に頼られると何とかしてあげたいと思います。話を聞いてもらっただけですっきりして帰られる人もいます。問題が解決したときにお礼を言われると、行政相談委員をやっている本当に良かったと感じますね」と笑顔で活動を振り返る。

行政相談委員は、行政に関する住民からの苦情や相談を受け、その解決に向け、相談者への助言や関係機関への働きかけをする、いわば市民と行政の架け橋役だ。相談は、年金、福祉、介護、土木、教育など多岐にわたる。

家族が支えた活動

10年前に行政相談委員就任を打診されたとき、90歳を超えた義母の介護もあり、夫の通也さんは反対したという。しかし、最終的には「やるなら、しっかりやれ」と後押し。それ以来、通也さんは、家事

全般に協力し、幸子さんの活動をサポートしている。幸子さんは、現在、行政相談委員のほか、市総合計画審議委員や市更生保護女性会副会長など多くの公職に就いているが、会議などを欠席することはほとんどない。これも家族の協力があったことだろう。

今後も相談委員

「忙しくやっている方がいい。寝ころんでテレビを見ているとダメになってしまふんです。いろいろな役をやつて外に出ると、皆さんが苦勞されていることがよく分かります。若いころは随分苦勞もしましたが、今は、好きな旅行に出かけたりして毎日を楽しんでいます。先日、高齢の女性から『そこを通ってきたから、今があるんだよ』と言われ、なるほどと思えました」と現在の心境を語る。

介護予防地域支援グループなどのボランティア活動にも積極的に参加するなかで、「一人でも多くの方に顔を覚えていただき、市民にとって身近な良き相談相手であり続けたい」と今後の活動にも意欲を見せている。